

県庁における『時間消費削減宣言』 ～部下の時間を大切に～ 和歌山県資料

○中堅・若手職員等の時間消費の削減に向け、マネジメント層をターゲットに8つの取組みを推進。

今ある業務のやり方を見直す	今の仕事をより効率化する	時間を大切にする
<p>①意思決定プロセスの見直し →・ペーパーレス説明 ・協議時間を最小限に設定</p> <p>②会議の必要性精査と基本ルールの設定 →・Web会議の活用 ・原則17時まで、1時間以内徹底</p> <p>③資料の削減&簡素化 →・必要性の精査、既存資料の活用 ・資料作成時、手戻り減のため6割完成時に中間報告</p> <p>④定例業務のルール化・標準化・効率化 →・照会の必要性の精査 (照会の統廃合、照会先・回数 の見直し、回答様式簡素化)</p>	<p>⑤デジタルツールの積極的な活用 →・デジタルツールの導入と活用 (電子申請システム、Kintone、議事録作成支援システム 等)</p> <p>⑥積極的な情報共有の実施 →・チャット機能の活用 ・チーム制の導入</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【フリーアドレスの実施】</p> <p>・情報共有や相談が活発に！ ・コミュニケーションを取りやすい！</p> </div> 	<p>⑦「自分時間」の導入 →・17時～17時45分(終業時間)は自身の業務に集中できるよう会議や照会、所属長等からの業務指示を原則禁止</p> <p>⑧柔軟で効率的な働き方実践 →・時差勤務制度 (始業時間を8時～10時までの30分刻みで5パターンから選択可能) ・育児・介護中の職員に対するリモートワーク(在宅勤務)の推奨</p>

「地方創生リモートワーク制度」の導入	在宅勤務の対象範囲拡充
<p>制度概要：県内のサテライトオフィス（振興局）やコワーキングスペース等を活用し、所属以外の場所で通常業務を実施</p> <p>目的：職場を離れた時の仕事のやり方やコミュニケーション、職場の対応方法等を検証</p>	<p>対象職員：育児・介護中の職員だけでなく、全職員を対象に必要性に応じて利用できるよう拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害による被災リスクを回避するとき ・一定期間集中して業務を行う必要があるとき 等 (資料作成、企画立案、補助金の審査 等)

ワーケーションの推進

○リゾート地や地方など、普段の職場とは異なる場所で働きながらも地域の魅力に触れることができる。

→ 企業、社員に対してイノベーション創出の機会を提供

【受入体制】

県に登録している**コーディネーター（旅行会社や観光案内所）**が、個人・企業のニーズに応じたワークプレイス、宿泊サービス、体験プラン及び交通手段等を**ワンストップで支援する**仕組みを整備。

【実績】

H29年度開始～現在で、285社2,525名が本県でワーケーションを実施。※県把握分のみ

【事例】

世界農業遺産活性化プロジェクト「梅収穫ワーケーション」
（一般社団法人日本ウェルビーイング推進協議会 主催）

概要： 一定の期間、和歌山県みなべ町内の宿泊施設に滞在しながら、**普段の仕事をリモートワークでこなす傍ら、町内の梅農家で収穫作業を手伝い**、地域との交流を深める。

メリット： 梅農家の人手不足の助け及び本県や農業への関心の拡大
和歌山の豊かな自然に触れ、リフレッシュ



和歌山県プロフェッショナル人材戦略拠点

○本業に従事しつつ、豊富な知識・経験を活かして「副業」「兼業」として、地方の企業の維持・成長・発展に貢献する人材と中小企業のマッチングをサポート。（（公財）わかやま産業振興財団内）

太陽シールパック株式会社（包装資材製造・販売）

企業の課題：製造工程の省力化や省人化に向けた社内ノウハウが希薄
副業人材：30代エンジニア、千葉県在住

↓ マッチング

AIを活用し、不良品を取り除く自動検品システムを構築することで、企業の課題解決に貢献。



女性活躍企業同盟制度

○女性活躍に優れた取組を行う企業・団体を組織化し、表彰等により、県内事業者への横展開を促進。
（R5.9末現在同盟参加数:932者、R4年度までの受賞者数:企業・団体17、個人1）

R4年度女性活躍推進賞受賞 株式会社早和果樹園（みかんの生産・加工品販売）

正社員の女性比率：55.3% 女性管理職比率：57.1%（R5.9現在）

- ・採用面接官に女性管理職を登用。
- ・社員食堂の活用（複数注文・持ち帰り可）で、職員の家庭での負担を軽減。
- ・相談しやすい環境づくり推進のため総務人事部に女性を重点配置。

